

目次

防災学習編

防災ハザードマップの活用方法について・問い合わせ先	P1
5段階警戒レベルについて	P2
風水害対策について	P3
洪水ハザード情報について	P4
土砂ハザード情報について	P5
避難行動ガイド	P6
地震対策について	P7

防災チェック編

わが家の地震対策&チェック	P8
非常時持出品の準備&チェック	P9

防災情報・避難所情報

関係機関一覧	P10
避難所・避難場所一覧	P11
災害情報の入手方法	巻末

防災ハザードマップ編

全体図	P12
詳細図(No.1~11)	P13~P34

防災ハザードマップの活用方法について

①地図上で家の位置と家の周りの災害の危険性を確認しましょう

この防災ハザードマップには、想定される浸水深、土砂災害について表示しています。自分が住んでいる場所に、どのような水害の危険、土砂災害の危険があるかを確認しましょう。ただし雨の降り方や土地の状態によっては、地図に示された区域以外でも洪水や土砂災害が発生することがありますので、十分に注意してください。

②指定避難所を確認しましょう

本書11ページの避難所・避難場所一覧で、自分の住んでいる地区で指定されている指定避難所を確認しましょう。そして地図上でその指定避難所がどこにあるのか、場所の確認をしましょう。

③避難経路を考えてみましょう

防災ハザードマップで自分が住んでいる場所から指定避難所まで、どの道を通れば良いか、避難経路を地図上で確認しましょう。地図上での確認が済んだら、実際に指定避難所まで歩いてみましょう。安全で歩きやすい道を選び、避難所までの経路を確認して、所要時間を計ってみましょう。実際に避難するときは、夜間・大雨・大人数での移動が考えられるため、所要時間は平常時の倍以上かかる可能性があります。

④家族や周辺住民と情報を共有しましょう

防災ハザードマップは家族と一緒に確認しましょう。地震、台風や大雨により、避難が必要になったときは、周辺住民、親戚、知り合いなどにこれから避難することと避難先を伝え、どこの施設に避難しているのか分かるようにしておきましょう。安否確認には、災害用伝言ダイヤル(171)の利用も有効です。

問い合わせ先

発行：飯豊町総務課防災管財室
問い合わせ：TEL 0238-87-0695(直通)
制作・著作：株式会社ゼンリン山形営業所



飯豊町では、SDGs未来都市の選定を受けています。